

Open

ココット

矢吹町複合施設KOKOTTOがグランドオープンしました



【グランドオープン テープカット】



【絶好調トークショー】

記念式典では、複合施設整備事業にあたり、デザイン監修、モニメント制作等にご協力いただいた株式会社ドムスデザイン代表取締役 戸倉 善子様、建設用地のご協力をいただいた東西しらかわ農業協同組合様、大野堂和様、建設工事の請負をいただいた高田・伸和・平成特別共同企業体 高田工業株式会社様、建築設計の請負をいただいた福島県建築設計協同組合様へ感謝

矢吹町複合施設KOKOTTOは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図るため、記念式典やイベント等は行わず、令和2年10月14日に「プレオープン」として供用開始をしました。この度、プレオープンから1年が経過し、依然として新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じる必要がありますが、感染予防対策を講じながら、グランドオープンにあつての記念式典と矢吹町名誉町民 中畑清さんによるトークショーを令和3年10月30日(土)に開催しました。

状を贈呈しました。その後、複合施設愛称募集表彰式、関係者によるテープカットが行われ、グランドオープンを迎えることができました。式典終了後には、矢吹中学校吹奏楽部の皆さんによる演奏が行われ、さわやかな秋晴れのもと、中心市街地に心地よい音楽が流れ会場を魅了しました。

また、第二部では、矢吹町名誉町民の中畑清さんによるトークショーが開催され、特別ゲストの女子400m日本記録保持者 千葉麻美さんとの絶妙な掛け合いや中畑さんオリジナルの楽曲を披露されるなど、中畑さんの絶好調トークと素晴らしい歌声に会場は大いに盛り上がりました。

なお、トークショーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図るため、会場への入場を制限させていただきました。Kokottoでのライブ配信を行うとともに、現在も矢吹町公式アカウントで、トークショーの様子を視聴することができますので是非ご覧ください。



【感謝状の贈呈】



【矢吹中学校吹奏楽部の演奏】

※視聴はこちらから <https://www.youtube.com/watch?v=qbk-b1b7ImE>



彼方の空

◇103

住宅評論家 本多信博

「子供の頃の夢は看護師になること。明治生まれの祖父から伝記を読むことを勧められていた私が選んだのは、看護師の母」と呼ばれたフローレンス・ナイチンゲールでした。200年前の人で建築家でもあった彼女が、傷ついた兵士を助けるために最初にしたことは病院をきれいにすることでした。

——看護師の資格を取り念願の夢を果たしました。
最初に勤務したのが東京・信濃町にある大学病院の小児科病棟でした。しかし、看護師になれた喜びとは裏腹に、命が助からない子供たちを見て、自分の無力さを感じていました。私はナイチンゲールの『看護覚え書き』を読み直しました。そこにはこう書かれています。「回復に必要なものは環境である」と。
——そして、今度は建築家への道を志すことに。
病院の建物は白を基調とし無機質で癒しとは無縁の建物です。病室に花を飾ることさえ、院内感染を懸念して禁止している病院が多いのです。
——イタリアへ留学した理

——看護師の資格を取り念願の夢を果たしました。
最初に勤務したのが東京・信濃町にある大学病院の小児科病棟でした。しかし、看護師になれた喜びとは裏腹に、命が助からない子供たちを見て、自分の無力さを感じていました。私はナイチンゲールの『看護覚え書き』を読み直しました。そこにはこう書かれています。「回復に必要なものは環境である」と。
——そして、今度は建築家への道を志すことに。
病院の建物は白を基調とし無機質で癒しとは無縁の建物です。病室に花を飾ることさえ、院内感染を懸念して禁止している病院が多いのです。
——イタリアへ留学した理

資格を取得。イタリアでの経験をもとに「建物に元気を与える」をテーマにしたデザイン事務所を立ち上げました。「環境造りを通して豊かな人生創りに貢献すること」が会社のミッションです。患者さんや元気にする病院の設計・デザインをするのも仕事のひとつですが、そもそも病気になるための日常を過ごす住宅や職場の環境がとても大事だと考えています。

——ナイチンゲールは病気になる原因の半分は住まい環境にあると言っていますね。

議論が始まる

どうしたら気持ち良く、前向きに病気を寄せ付けないマインドになれるか。そのための環境造りがいつも自分のテーマです。家にいるときはもちろん、街を歩いている時も、仕事で会社を訪問しても、レストランで食事している時も、その色彩、照明、空間構成、肌触り、香りなどが常に気になります。レストランではインテリアやスタッフのサービスの仕方に心うばわれ、何を食べたか覚えていないこともありませぬ(笑)。

——昨年発足した「ひと・住文化研究所」のシンポジウムが11月14日に開かれます。戸倉さんも参加されますが我が国の不動産業界では初の試みともいえる住文化に関する議論が始まります。

ドムスデザインの戸倉蓉子社長に聞く

住文化を語る喜び



シリーズ 今叶う、その思い

戸倉蓉子氏「ナースとして大病院に勤務中、人間は環境で生き方が変わること」に気付きインテリアの勉強を始める。98年ミラノに建築デザイン留学。パオロ・ナーバ氏に師事。帰国後、オール女性スタッフによるデザインオフィス、ドムスデザインを設立。病院・クリニック・マンションなどの設計を通じ、上質な人生と輝く生き方を応援している。一級建築士。

——コロナ禍で住まいに対する意識が変わりました。
コロナ禍では家にいる時間が増え、男性も家の環境に気付く機会が増えたので、これからは「家で日常を楽しむ」という視点が生まれてくると思います。イタリアから帰国した20年前は「家は人生を楽しむ舞台」と提唱しても誰からも相手にされませんでした。今ようやく、住まいと暮らしの文化について語れる日が日本にもきた喜びを感じています。

——コロナ禍で住まいに対する意識が変わりました。
コロナ禍では家にいる時間が増え、男性も家の環境に気付く機会が増えたので、これからは「家で日常を楽しむ」という視点が生まれてくると思います。イタリアから帰国した20年前は「家は人生を楽しむ舞台」と提唱しても誰からも相手にされませんでした。今ようやく、住まいと暮らしの文化について語れる日が日本にもきた喜びを感じています。